

永野小学校・学校だより(10月)

子どもたちの姿から

校長 小泉 啓治

9月の中頃、二階へ上がっていく階段を歩いていると1年生の二人の男の子が降りてきます。一人はどうも涙顔で、めそめそしています。喧嘩でもして保健室へ行くのかな、そして片方は保健係さんで付き添いかなと思いました。

「どうしたの。大丈夫ですか。」

と声をかけると、黙って手に持っているかごを見せてくれました。この日、1年生は永寿会の皆様と一緒に緑地公園に行ったのです。かごの中にはセミやトンボが何匹か入っていました。きっとそこで捕まえたものでしょう。でもそのかごの中をよよく見て涙の訳が分かりました。かごの中で、カマキリがトンボを食べていたのです。カマキリに頭から食べられているトンボの姿、そしてそのような状態にしまった自分の行為。そのようなことからの涙に違いありません。かなり食べられてしまっているトンボは、今から助けることはできそうにありません。なんと声をかけたらよいのか考えましたが、こういう事実をそのまま受け入れることしかないと考え、心の中で、

「あなたは今とっても良い勉強をしているんだよ」

と呼びかけるだけにしました。

学校に用事があったついでに私に手紙を届けてくれた方がいました

とてもうれしい事が有りました。16日午後、ピンポンのチャイムでドアを開けると(マンションの)二階の 君。

「明日は敬老の日、いつもよくしていただいて有りありがとうございます。どうぞこれを」とプレゼント。

「えっ、このバアバアに……。有りがとう」

君は緊張していてニコリともせず帰って行きました。君からのプレゼントの袋の中には、体によいきな粉まぶしの菓子や、おいしそうなクッキーなどいろいろ。それに折り鶴も一羽入っていました。君の心づかいがうれしくてうれしくて、皆様にお話ししたくなりました。オの敬老の日はずっとずっと忘れられません。

うれしくなったのは私も同じです。君の担任にも読んでもらいました。

9月19日に、PTA保健給食委員会主催の食育講演会が開かれました。港南区食生活改善委員(ヘルスメイト)の皆様を講師に迎え、本校の栄養士も参加して、「骨太の子どもたちを目指して」というテーマの講演と試食でした。たまたま読んでいた雑誌に、下のようなデータが載っていました。前の東京学芸大学の深谷和子先生のグループが、東京と長野の3地点で、子どもたちが朝食と夕食をどのように摂っているかということ調査したものです。これは食事の内容よりも食事とコミュニケーションについて、あるいは食卓の雰囲気についての調査ですが、みなさんはどうお考えになりますか。